



CEReS

Newsletter No. 140

Center for Environmental Remote Sensing, Chiba University, Japan

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2017年7月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：市井和仁)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33
Tel: 043-290-3832 Fax: 043-290-3857
URL: <http://www.cr.chiba-u.jp/>

■■ IGARSS 2017 参加報告 ■■

2017年7月24日から28日において、アメリカ・テキサス州のフォートワース(Fort Worth)において IGARSS 2017 (2017 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium) という学会が開催されました。本学会はリモートセンシングを主ターゲットとした学会の中では世界で最も大きな学会の一つであり、毎年開催都市を変えながら開催されています(2018年はスペイン・バレンシア、2019年は横浜の予定)。もちろん CEReS においても重要な学会の一つであり、今回は、ヨサファット研究室、本多研究室、市井研究室の3研究室、さらに兼任教員の山崎文雄教授、加藤 顕助教が成果発表を行いました。

フォートワースは、テキサス州のダラス・フォートワース空港から1時間くらいの距離に位置する都市です。会議期間中は毎日蒸し暑く、青空が広がり、強い日差しが降り注いでいました。その一方で、冷房が心地よく効いた会場では、1週間の間、世界各国から多くの研究者が集まり、活発な議論が繰り広げられました。



IGARSS が開催されたフォートワースコンベンションセンターの外観

CEReS からの参加者として、本多准教授は近い将来に打ち上げが予定されている GCOM-C1 衛星プロジェクトの陸域研究グループの成果を発表しました。特に、様々な地上検証サイトにおける観測研究の進捗、陸域プロダクト構築の進捗状況を発表しました。また、市井は、GCOM-C1 衛星からの地表面物理量プロダクトである葉面積指数と光合成量プロダクトに関する概念設計と進捗の報告、さらには温暖化予測モデルへの応用研究に関しての報告を行いました。またヨサファット研究室からは開発を進めている合成開口レーダに関する研究発表が複数件行われました。特に、ヨサファット研究室からは修士課程の学生の口頭発表も行いました。次年度以降も IGARSS には CEReS の多くの研究グループが本会議に参加し、CEReS の研究成果を対外にアピールする場になることと思います。

■IGARSS 2017 に参加して

ヨサファット研究室 博士前期課程 二年 泉 佑太

IGARSS はリモートセンシング分野で最大の国際会議であり、学部生の頃から参加を目標にしていた国際会議でした。今回ヨサファット研究室の共同研究者ならびにヨサファット先生の日々のご指導の下 IGARSS2017 に参加することが出来ました。

IGARSS は日頃から参考にしてきた第一線の著者の論文が発表される場であり、またそれら著者と意見を直接交わすことが出来る世界最大の場であるため、緊張しつつ毎日を過ごしました。そのため、発表資料は参加の二週間前から用意し、我々の伝えたいことが最大限に伝わるよう、何度も発表練習を積み重ねてきました。

IGARSS では主に二点得られたことがあります。まず一つ目として SAR 分野でのネットワークを広げることが出来たことです。学会が主催するソーシャルイベントに全て参加したため、ほとんど毎日様々な研究者と交流する機会がありました。これら交流により、現在抱えている SAR の問題点や将来の展望について深く議論することができたことは今後の自分の研究ビジョンにも大きな影響を与えたと感じています。

二つ目に、新たな SAR 分野の知識を得られたことです。IGARSS では最先端の研究が発表されているため、今まで見たことも無かった研究手法や SAR ミッションをたくさん学ぶことが出来ました。広く様々な分野を学ぶことが出来たので、研究室でより深く学び、今後の自分の研究に生かしたらよいと思っています。

今回の IGARSS 参加に留まらず、これから毎年参加できるように、引き続き研究に没頭したいと思います。

(報告者：市井和仁)

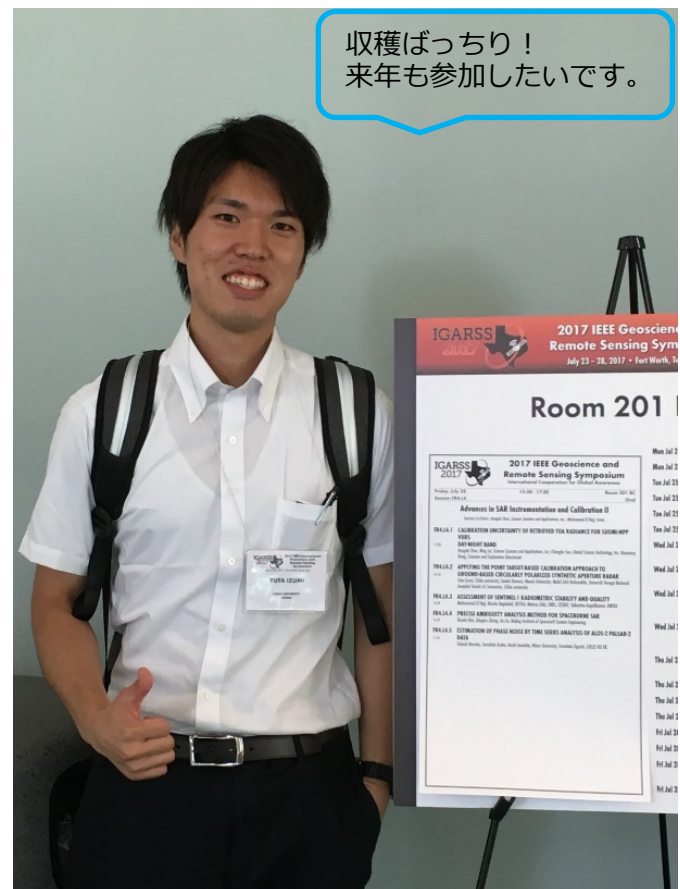


写真 2. IGARSS で研究発表をした 泉 佑太さん

Future Earth センター長と学生との意見交換会（4～7月のまとめ）

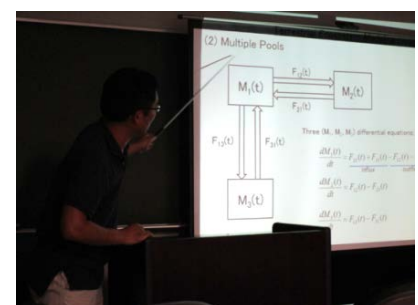
CEReS では今年度より学生を交えたフューチャー・アース（Future Earth）に向けた取り組みを始めています。フューチャー・アースでは、グローバルを対象にして、これまでの自然科学などの研究成果を社会実装することを目標とした国際的な取り組みです。フューチャー・アースに貢献するためには、個別の研究を個々の環境問題に対応するために社会実装することに留まらず、個別のケーススタディを全世界に共通化するフレームワークも必要となります。これらを踏まえた上で、CEReS では安岡センター長が主催し、有志の学生・教員が集まり、定期的に勉強会をしています。今回は、7月までの開催分を報告します。

第一回は4月に開催しました。CEReS の各研究室の学生1名より、自身の研究テーマがどのようにフューチャー・アースにつながるのかを発表しました（CEReS ニュースレター4月号参照）。学生自身が自身の研究を振り返り、研究テーマがどのように実際の環境問題の把握や解決につながるのか、その可能性を紹介しました。研究活動を進めるにあたって、一旦、自身の研究を振り返り、研究の本質的な意味や、潜在的な環境問題への貢献について実感することで、自身の研究をさらに精力的に進めようとするにつながったかと思えます。



第二回は6月に開催し、フューチャー・アース国際事務局日本ハブの毛利英之氏、長谷川麻子氏をお迎えし、国際事務局の役割や事務局の具体的な活動、また、フューチャー・アースにおける日本の貢献などについてお話をいただきました。フューチャー・アースに対する取り組みとして、CEReS のように学生を取り込んだ取り組みは初めてのことであったとの講評を頂きました。学生の参加には高い関心をお持ちいただけたかと思えます。

第三回は7月に開催し、センター長と市井より、フューチャー・アースの課題の実践のために、どのようにローカルな研究をグローバルにつなげるかということを経験したレクチャーを行いました。センター長は、衛星データを利用した広域化研究について、特に地上観測データと衛星データを用いて地上観測をどのようにスケールアップするかを紹介しました。市井は数値モデルを利用した陸域環境変動の解析について、広域推定や環境変動の要因把握の方法などの話を紹介しました。



これらの取り組みは今後も継続します。まずは来年2月に開催予定の CEReS の研究シンポジウムにおいても学生の皆さんがフューチャー・アースを意識した研究成果の発表をすることを一つの目標としています。また、学生の皆さんの研究の意識付けの中で、自身の研究が科学的な重要性に加えて、社会的な重要性を持つことを再認識することで、自身の研究がどのように環境問題の解決に役に立っていくのか、どのようにしてローカルスケールの研究をグローバルに一般化していくのかを認識することで研究活動の幅を広げることも重要であると考えております。（文責：市井和仁）